

新たなステージに入った認知症予防 ～日本認知症予防学会に期待されること～

浦上 克哉

鳥取大学医学部認知症予防学講座（寄附講座）

2023年6月14日に認知症基本法が成立しました。6月14日は、日本認知症予防学会が記念日登録をした認知症予防の日です。認知症予防を含めた様々な施策が施行されております。

治療では抗アミロイドβ抗体薬の処方が可能となり新たなステージに入りました。抗アミロイドβ抗体薬の処方対象となる軽度認知障害（MCI）と軽度のアルツハイマー型認知症を早期発見することが必要です。MCIでは自覚的な記憶障害だけでなく客観的な記憶障害も認めるが、記憶障害以外の高次機能には障害がないことが特徴です。スケールでは、CDRでは0.5、HDS-Rでは21点から28点、MMSEでは24点から27点くらいが該当します。ただ、このような総点だけではなく、各項目の失点具合も見る必要があります。アルツハイマー型認知症の前段階であるMCIの場合は、遅延再生（たとえば桜、猫、電車のような）、日時の見当識（年、月、日、曜日）などで失点し、他の項目は正常範囲です。処方の対象は、アミロイドPETあるいは髄液中アミロイドβ蛋白の測定を行い、脳内にアミロイドβ蛋白の蓄積を証明できた方に限ります。これらの検査は精密検査になりますので、これらの検査に繋げるためのスクリーニング検査が必要になります。我々は嗅覚機能に着目したスクリーニング検査を推奨しております。アルツハイマー型認知症は海馬の障害による記憶障害の前に、嗅神経の障害による嗅覚機能の低下が起これ、初期変化として重要です。そこで、アルツハイマー型認知症の前段階としての嗅覚機能障害を発見する検査キットであるニンテスト（小林製薬、栄研化学）を開発しました。約5分程度で簡便に施行でき、感度、特異度も高く有用です。鳥取県琴浦町で429名の方に施行したところ、認知機能が低下している方は16.3%だったが、嗅覚機能が低下している方は69.2%と約4倍多く見つけることができました。

一方で、抗アミロイドβ抗体薬の投与対象とならない方への対応も重要です。薬物治療としては症状改善薬の有効活用が期待されます。新薬アリドネパッチのような貼付剤は、服薬状況を可視化でき高いアドヒアランスを期待できます。症状改善剤の対象とならない軽度認知障害（MCI）には予防対策が求められます。Lancetの2024年版では修正可能な要因が45%に達したと報告されました。認知症予防に有効な因子に関する啓発を行い、予防教室などを運営していくことが重要と考えます。本学会で認定している認知症予防専門士の活躍の場が広がっていくことが期待されます。